

## 任意

# 麻しん風しん混合(MR)及び風しん予防接種の説明書

この予防接種は任意接種で、ご本人が接種を希望する場合に実施するものです。効果や副反応などについては十分に理解した上で接種してください。

助成対象者：接種時に大阪市民(住民登録のある方)で、風しん抗体を有していない又は抗体価の低い「妊娠を希望する女性」又は「妊娠を希望する女性の配偶者(妊婦の配偶者含む)」(「風しん抗体を有していない又は抗体価が低い」とは、風しん抗体価が HI 法で 16 倍以下、EIA 法 8.0 未満の値にある者をいう)

※ただし、以下の方は接種対象外とします

①妊娠中の女性

②麻しん風しん混合ワクチン又は風しんワクチンを 2 回接種したことがある方

③平成 25 年度以降実施した風しんワクチン接種費用助成事業により麻しん風しんワクチン又は風しんワクチンを接種した方

④風しんにかかったことがある方

助成期間：平成 30 年 4 月 1 日(日)～平成 31 年 3 月 31 日(日)

助成回数：1 回

## 1 病気について

### ○麻しん(はしか)

麻しんウイルスの空気感染(ウイルスが空気中に飛びだし、人に感染すること)によっておこる病気です。潜伏期間(感染してから症状がでるまでの期間)は 10～12 日です。感染力が強く、予防接種を受けないとほとんどの人がかかる病気です。発熱、咳、鼻水、めやに、発しんを主症状とします。最初 3～4 日間は 38℃前後の熱が出て一時おさまり、再び 39～40℃の高熱と発しんが出ます。高熱は 3～4 日で下がり、次第に発しんも消失します。

主な合併症としては、気管支炎、中耳炎(5～15%)、脳炎(0.1%)があります。また、亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という慢性に経過する脳炎は約 10 万人に 1 人発生します。又、麻しん(はしか)にかかった千人に 1 人の割合で死亡します。

### ○風しん(三日はしか)

風しんウイルスの飛沫感染によっておこる病気です。潜伏期間(感染してから症状がでるまでの期間)は 2～3 週間です。軽いかぜ症状で始まり、発しん、発熱、首や耳の下のリンパ節腫脹、目の充血などを主な症状とします。

合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病(3,000 人に 1 人)、脳炎(6,000 人に 1 人)などが報告されています。大人になってからかかると一般的に重症になりやすいことがあります。妊婦が妊娠早期にかかると先天性風しん症候群(先天性心疾患、白内障、難聴等)をもつ子どもが生まれる可能性が高くなります。そのため、女性は妊娠前に予防接種を受けておくことが大切です。また、男性も風しんにかかって周りの妊婦に感染させないために、風しんの既往の確認や予防接種について考慮する必要があります。

## 2 予防接種の効果について

予防接種を受けた人の約 95%は免疫を獲得することができ、麻しん及び風しんにかかることを防ぎます。免疫の持続期間はワクチン 1 回接種で約 20 年とされています。

## 3 予防接種の副反応について

### 麻しん風しん混合(MR)ワクチン ※通常このワクチンを使用します

このワクチンは弱毒生ワクチンです。接種後 2 週間以内に発熱(13%)、発しん(3%)がみられますが、通常は 1～3 日で消失します。また、接種部位の発赤、はれ、しこりなどがみられますが、いずれも一過性で数日中には消失します。

ごくまれに重い副反応としてアナフィラキシー様症状（ショック症状、じんましん、呼吸困難など）、急性血小板減少性紫斑病（紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等）、脳炎及びけいれん等が報告されています。

**【風しん(単独)ワクチン】**

主な副反応は、発しん、じんましん、紅斑、かゆみ、発熱、リンパ節のはれ、関節痛などが認められています。ごくまれに生じる重い副反応としては、ショック、アナフィラキシー様症状があり、また、急性血小板減少性紫斑病（100万回接種あたり1人程度）が報告されています。

#### 4 接種にあたっての注意事項

予防接種は体調の良い日に行うことが原則です。健康状態については、かかりつけ医等に相談のうえ、接種するかどうかを決めてください。

(1) 当日、次の状態の場合には予防接種を受けることができません。

- ア 明らかに発熱（通常 37.5℃以上）がある場合
- イ 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ウ 予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
- エ 免疫機能に異常のある疾患を有する及び免疫抑制をきたす治療を受けている場合
- オ 現在、妊娠している場合
- カ その他、医師が不適切な状態と判断した場合

**【女性への注意事項】**

妊娠している人、又はその可能性がある人は接種することができません。

**妊娠可能な女性は、あらかじめ約1か月間避妊した後接種してください。**

（妊娠していない時期、すなわち生理期間中、又はその直後がよいといわれています）

また、**ワクチン接種後約2か月間は妊娠しないように注意してください。**接種にあたっては、わからないことがある場合は、接種を受ける医師によくご相談ください。

(2) ワクチンの接種間隔

- ア 生ワクチンの接種を受けたあとは27日以上、不活化ワクチンの接種を受けたあとは6日以上の間隔をあける必要があります。また、医師が必要と認めた場合には、他の予防接種と同時に接種することができます。

参 考 生 ワ ク チ ン：麻しん風しん・水痘・おたふくかぜなど

不活化ワクチン：A型肝炎・B型肝炎・日本脳炎・DTなど

- イ ガンマグロブリンの注射などを受けたことのある人は3～6か月以上あけて接種してください。

(3) 接種後の注意

- ア 接種を受けた後に、急な副反応が起こることがありますので接種後30分間はその場で様子を見るようにし、30分たってから医療機関を出るようにしましょう。
- イ 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ウ 接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- エ このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、27日間以上の間隔をあける必要があります。ただし、同時接種を希望する場合は、医師にご相談ください。
- オ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- カ 接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です

#### 5 予防接種による健康被害救済制度について

ワクチン接種によって重篤な副反応が発生した場合は、任意の予防接種であるため、医薬品の副作用による健康被害として独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済制度の対象となります。

（救済制度相談窓口）

電話：0120-149-931（フリーダイヤル）

受付日・時間：月～金曜日（平日9時から17時（祝日・年末年始除く）